

# 「ほうじょう」コラム

「試験操業備忘録」 漁業調査指導船「ほうじょう」船長 宍戸俊夫

私は、昭和57年に船舶職員として採用され、「相模丸（6代目）」、「江の島丸（7代目）」と乗り継ぎ、現在乗船している「ほうじょう」に至ります。

初めての配属先である、「相模丸（6代目）」では甲板員（後に冷凍長）でした。相模丸は、日本周辺海域や、黄海海域、南西諸島海域等で操業する、イカ釣り主体の漁業調査船で、1航海が、おおむね30～50日の長期航海の船でした。



相模丸（6代目）

※ロシア領海内での操業のため、一時的に船名をロシア語で併記してある珍しい状態の相模丸。

主に、操業は夜間なので、漁火を焚き、イカを誘き寄せ、採捕します。研究目的外で採れたイカは、箱詰めにされ水揚げします。

多い時は、1000箱にもなりました。



イカ釣り道具のもつれ補修風景



箱詰めされたイカの水揚げ風景

もちろん、イカ以外にも、エビやキンメダイ等の採捕、水揚げもありました。



ミノエビ調査（南西諸島）



キンメダイ調査（小笠原海域）

船内での仕事は、船の運航や操業のみならず、時には、賄いもやりました。



賄いに立つ筆者（20代半ば頃）

また、他国の領海内へ入ることもあり、その際には、相手国の沿岸警備艇からの臨検や、税関手続きを受けることもありました。



ロシア国沿岸警備艇

その後は、慣れ親しんだ「相模丸」を下船し、平成6年「江の島丸」へ転船、平成27年より現職に就きました。

採用されてから、短く感じる年月ではありましたが、思えば、色々なことを学び経験いたしました。今後は、その経験や知識を生かし、神奈川県の水産業発展に貢献すると共に、後進の指導育成に力を注ぎたいと考えております。